



強い女の子 フローラ

学校からの帰り道、フローラはよく、町の広場でカポエイラという伝統武術を練習している男の子たちを目にしました。真っ白な道着に身をつつみ、あざやかな色の帯を腰に巻いた男の子たちが、音楽のリズムにあわせてキックをしたり、くると回ったりしています。その楽しげなようすを見ているうちに、フローラは、力強いダンスのような動きのとりこになりました。それから数週間、男の子たちのようすを見つけたフローラは、ついに勇気を出して、練習に参加させてほしいとたのびました。

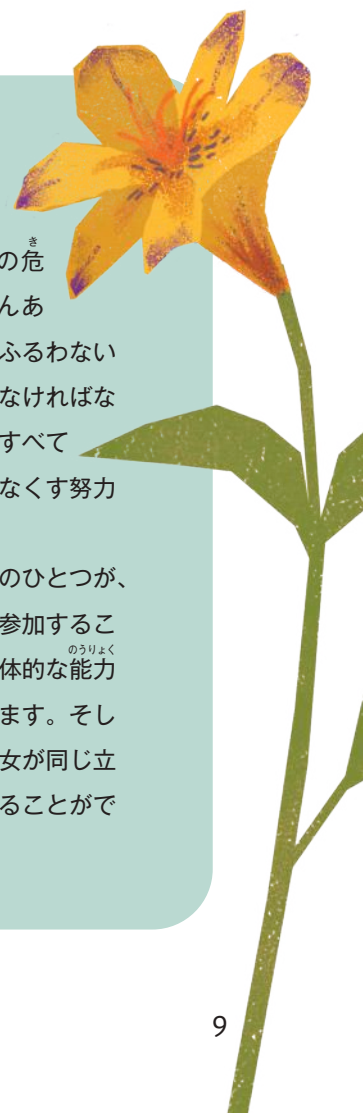
カポエイラの先生は、フローラの参加をこころよく受け入れてくれました。先生は、フローラがカポエイラを学べば、学校への長い通学路をひとりで歩くとき、自分で自分の身を守れるようになると思ったのです。この町では、フローラのような女の子の後をつけ、おそったり物をうばおうとしたりする男の人がしばしばいました。女の子は弱いと思っているからです。

「もう限界！」フローラは思いました。そして、毎日トレーニングをがんばり、日増しに強くなっていきました。強さを示す帯の色が、無地から青、つぎに茶色、緑へと変わっていきます。さらに黄色、紫、赤……と、

フローラはどんどん上達していきました。

いつの日か、最高の強さをしめす白帯を手に入れる日をフローラは夢見ています。そして、同じ町の女の子たちにもカポエイラを教え、楽しみながら自分たちの安全を守る方法を身につけてほしいと願っています。

フローラの物語は南米のブラジルが舞台ですが、残念なことに、世界には女の子が暴力の危険にさらされている国がたくさんあります。男性や男の子は、暴力をふるわないように、自分の行動に責任をもたなければなりません。性別や年齢をとわず、すべての人が協力して、こうした暴力をなくす努力をすることが必要です。こういった暴力に立ちむかう方法のひとつが、女の子が武道やスポーツの活動に参加することです。活動を通じて女の子は身体的な能力を高め、自信もつけることができます。そして、友人やチームメイトとして男女が同じ立場で協力することで、意識を変えることができるのです。





かしこい女の子 ハナ

本が大好きなハナは、ひまさえあればいつでも読書をしています。文字を読めなかったら、自分の人生はどうなっていたか想像もできません。ハナの国では20年ものあいだ、女の子が学校に通うことが禁じられてきました。そのため、ハナのお母さんも教育を受けることができませんでしたし、ハナもそうでした。でもハナには、こっそり読みかたを教えてくれるおばあさんがいました。

毎朝、ハナのおばあさんとその友だちは、孫娘たちを連れて、日ごと違う家に集まりました。みんなでお茶を飲んでおしゃべりをするふりをして、ほんとは孫娘たちに読み書きを教えていたのです。おばあさんたちは、女の子にも男の子と同じように学ぶ権利があると考えていたからです。

その後、法律が変わり、ハナたち女の子も学校に通うことが許されるようになりました。近くにある男の子の学校にはりっぱな教室があるのに、女の子たちはテント張りのそまつな教室で、土がむき出しの地面に座って授業を受けました。それでも、みんなは学べることがうれしくて、わくわくしていました。

ハナは大きくなったら先生になって、おばあさんがしてくれたように、多くの女の子たちに文字が読めるという幸せを届けたいと思っています。

世界には、学校に通えない女の子が何百万人もいます。家がまずしくて学費が払えなかったり、学校から遠く離れた場所に住んでいたりするためです。また、ハナの物語の舞台となったアフガニスタンのように、法律や慣習によって、女の子が学校に通うことを禁じられている国もあります。教育を受けられないということは、女の子自身だけでなく、そのまわりの人たちにも悪い影響をおよぼします。教育は、女の子自身やその家族、地域にくらす人びとが、よりよい未来を切りひらくためのカギとなるのです。

